

坂口 志文 大阪大学特別栄誉教授

ノーベル生理学・医学賞受賞記念講演会

免疫が拓く 医療の未来

制御性T細胞

その発見から新しい治療に向けて

Regulatory T cells for Immune Tolerance :
Discovery and Clinical Prospects

2026年3月8日(日)

開場13:00 開演14:00 (終了予定15:30)

東京建物 Brillia HALL 箕面
(箕面市立文化芸能劇場)

入場無料 要申込・先着1,400名様

お申込フォーム

右記2次元コードよりお申込いただけます。
[https://open-univ.osaka-u.ac.jp/custom/
app/Views/event/detail.php?id=485](https://open-univ.osaka-u.ac.jp/custom/app/Views/event/detail.php?id=485)



お問合せ

大阪大学 坂口志文特別栄誉教授ノーベル生理学・医学賞
受賞記念講演会事務局

Email: nobel-lecture-20260308@ml.office.osaka-u.ac.jp



WPI The University of Osaka
iFReC

 **大阪大学**
THE UNIVERSITY OF OSAKA

© Nobel Prize Outreach. Photo: Nanaka Adachi

さ か ぐ ち し も ん
坂口 志文

大阪大学特別栄誉教授
免疫学フロンティア研究センター特任教授（常勤）

2025年ノーベル生理学・医学賞受賞

「末梢性免疫寛容に関する発見」



ノーベル賞受賞記者会見（2025.10.6 大阪大学コンベンションセンター）

功 績

1979

制御性T細胞（Treg）に関する研究を開始

1995

Tregの存在を示し、免疫学におけるその重要性を世界で初めて証明

2003

Tregを働かせるのに必須の遺伝子 Foxp 3 の発見

ヒトの免疫病の治療・予防、がん免疫療法、
臓器移植時の拒絶反応に対する緩和の誘導

など医療への応用が期待される



坂口志文先生ノーベル賞受賞
記者会見の様子はこちら！



大阪大学「ワニ博士」

研究成果

- 制御性T細胞 (Regulatory T cell; Treg) を発見し、免疫自己寛容（自己に対する異常な免疫反応を抑える）、免疫恒常性（アレルギーなどの過剰な免疫反応を抑える）の仕組みを明らかにした。
- 制御性T細胞を標的とした免疫病の治療法・予防法、がん免疫療法の開発、さらに臓器移植時の拒絶反応に対する免疫寛容誘導法の開発に道を拓いた。

【学歴】

- 1969年 3月 滋賀県立長浜北高等学校卒業
- 1976年 3月 京都大学医学部医学科卒業
- 1976年 4月 京都大学大学院医学研究科博士課程入学（1977年 9月 中退）
- 1977年10月 愛知県癌センター研究所研修生
- 1980年 4月 京都大学医学部研究生
- 1983年11月 京都大学医学研究科博士号取得

【職歴】

- 1981年10月 京都大学医学部附属病院医員
- 1983年 9月 ジョンスホプキンス大学卒業後研究員
- 1987年 7月 スタンフォード大学客員研究員（Lucille P. Markey Scholar）
- 1989年 7月 スクリップス研究所助教授
- 1992年 3月 新技術事業団個人研究推進事業「さきがけ研究21」専任研究員
- 1995年 4月 東京都老人総合研究所免疫病理部門部門長
- 1999年 2月 京都大学再生医科学研究所教授
- 2007年10月 京都大学再生医科学研究所長
- 2011年 4月 大阪大学免疫学フロンティア研究センター教授
- 2013年 7月 大阪大学特別教授（2016年 3月まで）
- 2016年 4月 大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授（常勤）
- 2017年 4月 大阪大学栄誉教授（2025年 3月まで）
- 2025年 4月 大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授
- 2025年10月 大阪大学特別栄誉教授
- 2025年12月 大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授（常勤）（現職）